

G10からG4へのメッセージ

2007年6月17日

主要な食料輸入国のグループであるG10の代表は、本日ジュネーブで会合を開き、DDAの成功裏の交渉終結を目指す観点から、G10としての結束を強化した。会合は、日本の赤城徳彦新農林水産大臣が招集した。

1. 会合出席者は、農業交渉におけるG10の主要な優先事項として以下を再確認した。
 - ・ 上限関税の不適用
 - ・ 受入可能でかつ柔軟性のある最上位階層の関税削減率
 - ・ 重要品目の適切な扱い・数これらの関心事項が適切に対処されることを条件に、我々は他の分野で柔軟性を示す用意がある。
2. 我々は、3分野間の段階的な扱いを予見したドーハ・マンデートを想起する。すなわち、輸出補助金は完全な撤廃、国内支持は実質的な削減、市場アクセスは実質的な改善とされている。
3. 本ラウンドは「シングル・アンダーテキング(一括受諾方式)」で行われる。したがって、NAMA、サービス、ルール、貿易円滑化、貿易と環境、知的所有権を含む、交渉の全ての分野での並行した進展が必要である。
4. これまでの農業とNAMAの交渉の歴史の違いや、農業に特有の多面的機能を考慮することなく、両者を単純に比較すべきではない。
5. 我々は議長プロセスに建設的に貢献する用意があるが、G4での協議結果がそのまま議長モダリティ案に反映されるようなことがあれば、このような案は絶対に受け入れられない。我々は、すべての加盟国は真の多国間プロセスを支持していると考えている。